



農林水産委員会 林業部会
第3回モクビル研究会

と き：2月13日(月)
ところ：福岡市・九経連会議室 & WEB
出席者：52名

林産業の好循環化及び炭素貯蔵につながる建築物への木材利用拡大（木造ビルの早期実現）を果たすため、「技術力の向上」と「SCM全体の最適化」等諸課題を洗い出し集合知を形成することを目的とし、2021年度に「モクビル研究会」を発足。今年度は、木造先行事例研究による部会全体の技術力向上と、SCM最適化検討会にて製材情報集約や提案ツール作成など中心に取り組み、今回は次のとおり第3回目の研究会を実施しました。

【次第】

1. 開 会

- ・リーダー挨拶:モクビル研究会 倉掛リーダー
- ・趣旨説明:事務局(九経連 農林水産部)

2. 木造建築先行事例研究

講師:(株)山田憲明構造設計事務所
代表取締役 山田 憲明 氏
演題:「地域木材を活かした木構造事例」

3. 林業部会SCM最適化検討会

- ・次年度の活動計画
- ・施主情報の共有・補完体制の構築検討
- ・意見交換 等



SCM最適化検討会では、木造のニーズを確実に捉えるための情報基盤の整備について、事務局より案を提示し議論を行った。特に、国内でも都市部で中層以上の木造ビルを手掛けた設計士はごく僅かであり、木造ビル（構造設計）経験者と協働できる等、経験者と繋がりやすい環境づくりが課題といえる。これを実現するため、九経連のリソースが活用可能なプラットフォームの整備に向け、ネットワークを構築して研究会で情報共有を講じていけないかと考えている。大きな方向性には賛同いただいたが、個別施策に対し、引き続きご参加いただいた山田氏はじめ参加者より「木材生産者や木材コーディネーター等関係者を加えるべき」「林業部会を中心に関係者のリストアップをすべき」等貴重なご意見・アドバイスをいただいた。

なお、次回5月予定の研究会では、「九州の製材所情報調査の経過報告」と、今回いただいたご意見・アドバイス等を参考に、関係者のリストアップ等させ深度化させた補完体制案をあらためて提示し、議論・検討を進めることとする。

編集後記

当研究会NEWS(かわら版)担当の櫻木です。九経連の玄関先にある満開の桜を眺めると、不安を抱え鉄道の世界からひらひらと林業界に舞い込んだ2年前のことを思い出します。早いもので4月より出向元(JR九州)へ戻ることとなり、担当するのも今号で最後となりました。研究会運営に際し、これまでたくさんご指導・ご協力をいただき誠にありがとうございました。微力ではございますが、出向元に戻りましても木材利用促進を忘れることなく協力に励んでまいります。



九経連(電気ビル共造館)の枝垂れ桜

冒頭、当研究会倉掛リーダー (Fukuoka Timber Building Lab 代表) の挨拶後、事務局より研究会活動の趣旨を説明。

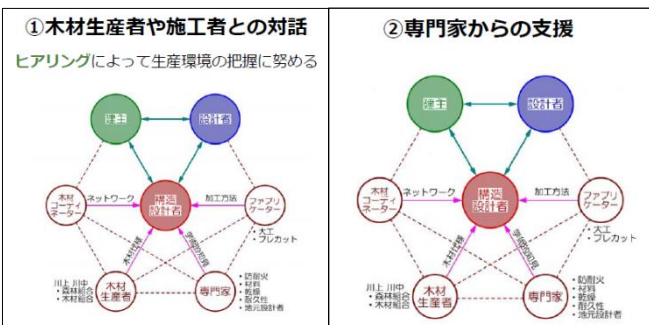
木造建築先行事例研究では、(株)山田憲明構造設計事務所 代表取締役 山田 憲明 氏より、「地域木材を活かした木構造事例」と題し、中大規模木造建築の設計条件整理の仕方や関係者との対話の重要性、同氏の木造建築事例、一般製材による中大規模木造の取り組み等ご講話いただいた。



山田代表(オンラインでご登壇)



施工事例:昭和電工(大分県立)武道スポーツセンター



山田氏の関係者相関図

講演後は参加者との意見交換を行い、参加者の技術力向上はもとより、九州全体のSC最適化に向け非常に参考となる有益なものとなった。